

## プラス弁当屋の多角経営で コロナに対抗



—農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄—



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫入行、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表。

（主な著書）

「未来を耕す農的社会」「農的社会をひらく」「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上創森社）  
「日本農業のグランドデザイン」（農山漁村文化協会）など

散髪は山梨の畑の近所にある I 理髪店で済ませている。畑から300メートル、歩いて1、2分。至近距離にあるだけでなく、とにかく散髪が早いのが一番の理由だ。実質15分ぐらい。音楽談義等をしながらの散髪で、30分弱で終了。ところがこの理髪店で困るのは、いつ開いているのかが分からないとともに、開いていない時のほうが圧倒的に多いことである。

この理髪店の店主 I 氏は、私の畑がある山梨市牧丘町から車で30分ほどにある石和で、カフェと音楽スタジオも所有・経営している。音楽スタジオは単にスタジオというよりは、100弱の客席も設けることができ、ライブハウスといったほうが正確かもしれない。I 氏はこれを音楽スタジオと呼ぶが、それほど音響設備は相当に凝ったものらしい。このライブハウスやカフェの運営で忙しく、時間に余裕があれば牧丘町に戻って理髪店を開けるということになるわけだ。

その I 氏をさらに忙しくしているのが音楽活動で、津軽三味線の名手で、歌やギターもなかなかである。山梨で津軽三味線といってもピンとこないが、開墾して畑を開き既に30年近く経過するが、畑ができて間もなく畑の横に作った拙宅にも来てもらって食事を共にしたが、その時に披露してくれた津軽三味線は“すさまじい”の一語に尽きるものであった。たくさんのお弟子さんも持っておられるという話で、自分が出ないけれどもお弟子さんたちは全国で開かれている津軽三味線の大会に出場して入賞もしているとのこと。確かに相当な弾き手であることを納得した。



閉まっていることが多いので、予約するか、事前に電話でやっているか確認しておくほうがいい

その後、どういう風の吹き回しかはわからないが、自分が出ない、という全国大会に出るようになった。一つ、二つと優勝するうちに、全国で七つある大きな津軽三味線の大会すべてでの優勝獲得を目指すようになり、見事にすべてを制覇。今年の1月には牧丘町にある花かげホールで山梨市の主催による“凱旋公演”を行った。これほどの腕前につき、あちこちで演奏の依頼に加えて、自らのグループの活動もあって、まさに東奔西走。“寝る暇もない”ほどの忙しさだ。

ところが凱旋公演が終わって間もなく、新型コロナウイルス問題が発生。三密を避けるため、カフェも音楽スタジオも休止で演奏会もなし。ぱったり暇になって、理髪店に専業するのかと思っていたところが、相変わらず店はたまにしか開かない。散髪してもらいながら話を聞いてみると、カフェと音楽スタジオを拠点にして弁当屋を始めたとのこと。外食需要が急減して販路を失ってしまった農産物を何とか消費者の口に入れるようにすることによって、農家の経営を応援しようということで開始したもので、自ら包丁を使い、車を運転して配送もする。この弁当屋のために板前やおばちゃんたち、そして配送のためのアルバイトも使って、山梨県全域を対象に本格的に展開。味はもちろん、農家応援の心意気とリーズナブルな価格で弁当の評判も上々のようだ。

まさにパワフルそのもので、理髪店を開いていても、客がない時にはいろいろの工具を持ち出しては削ったり、磨いたり、くっつけたりと、何かをやっている。じつとはしていられない性分のようだ。ちなみに I 氏は舞台上で演奏する際には「藤田淳三」の名前で登場している。